

EST. 1974

DUTCHWEST

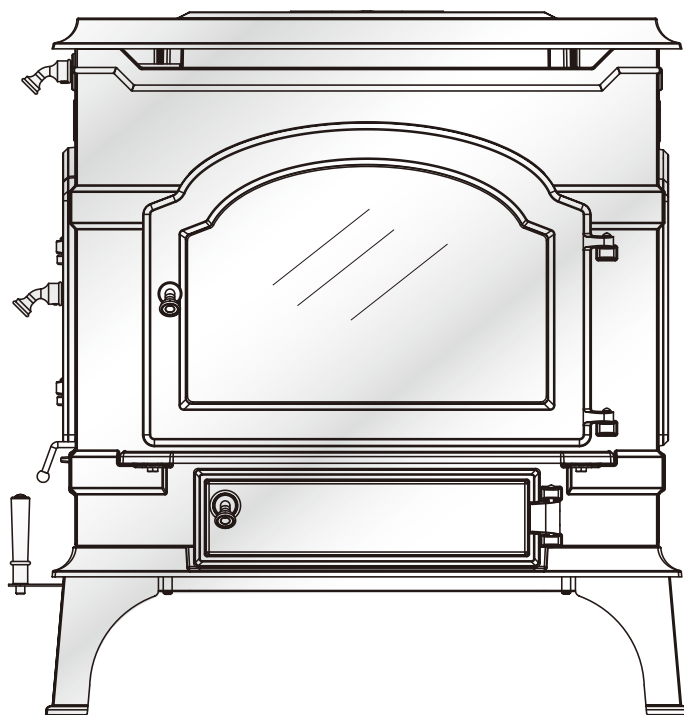
BYERMONT CASTINGS

DUTCHWEST Lean-Burn Heaters “Enlight”

ダッチウエスト リーンバーンヒーター “エンライト”

モデルFA247・FA248・FA249

据え付け・取り扱い説明書



安全のために

据え付けや運転を行う前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。このストーブは、適切な据え付け、運転、維持がされている限り安全にご使用になれます。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。

この説明書は捨てずに必ず保存しておいてください。



はじめに

このたびは、ダッチウエスト・リーンバーンヒーター“エンライト”をお買い上げいただき、誠に有難うございます。このストーブは、米国オレゴン州にある公認のテスト機関「OMNI」でUL1482の適合テストを受け、認定されたストーブです。また、このストーブは、キャタリティックコンバスターを使用しないリーンバーン燃焼でありながら、キャタリティック燃焼と同レベルの燃焼効率、排気煙量、長時間燃焼を可能にした画期的なストーブです。

このストーブの据え付けは、専門業者に行ってもらうことをお勧めいたします。ご自分で据え付けを行う場合は、専門業者のアドバイスを仰ぎながら行うようにしてください。

また、火災保険の適用条件ついて、保険会社に確認されておくこともお勧めいたします。

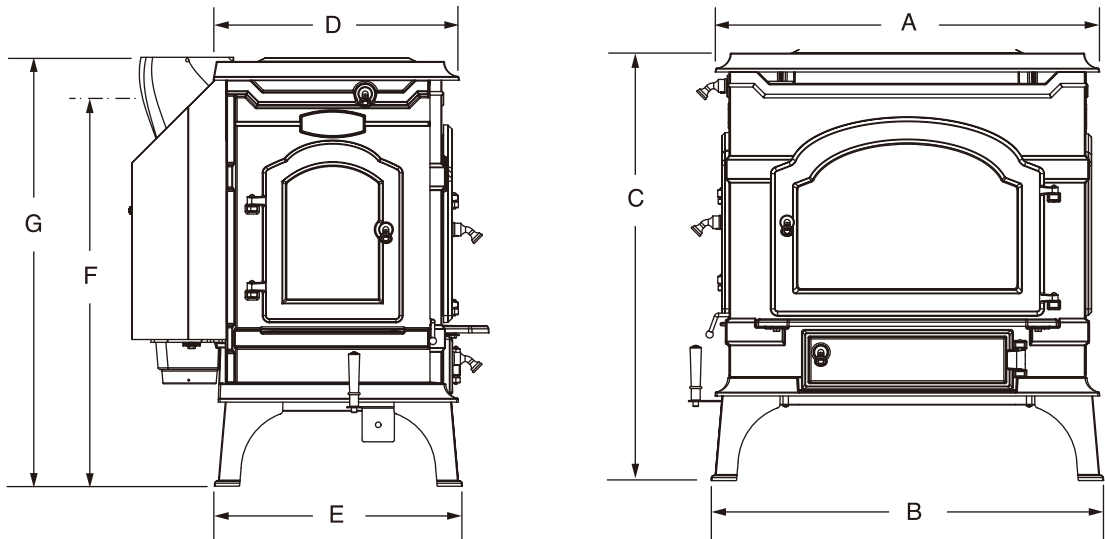
DUTCHWEST Lean-Burn Heaters “Enlight”

目次	
----	--

●仕　　様	1
●安全距離	2
●組み立て方法	4
●使用方法	6
●メンテナンス	10
●分解図とパーツリスト	16

組み立てやご使用の前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。この説明書は、今後のご使用の際に簡単に見ることができるよう、身近なところに保管してください。

仕様



	●FA247	●FA248	●FA249
A	610mm	675mm	735mm
B	625mm	695mm	756mm
C	750mm	757mm	826mm
D	435mm	435mm	475mm
E	440mm	440mm	481mm
F	679mm	679mm	764mm
G	745mm	745mm	841mm
最大薪長さ	48cm	56cm	61cm
最大燃焼時間 ¹	10時間	12時間	14時間
平均暖房面積 ²	65～130㎡	74～149㎡	93～223㎡
最大熱出力 ¹	10,100Kcal	13,100Kcal	17,600Kcal
EPA (米国環境保護局) 排気煙量	1.41g/hr	1.49g/hr	1.31g/hr
重量	181kg	191kg	218kg
薪投入口	左側面・正面	左側面・正面	左側面・正面
煙突取り付け位置	上・後	上・後	上・後
空気調節	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所

図1 ダッチウエスト・リーンバーンヒーター“エンライト”の仕様

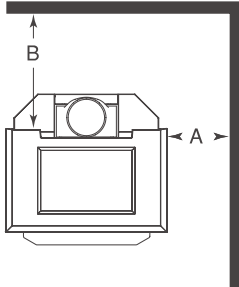
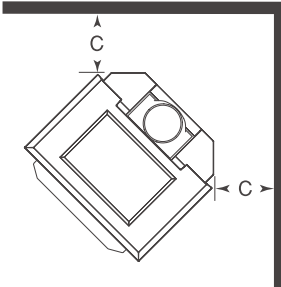
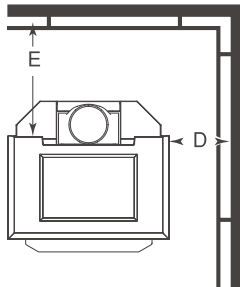
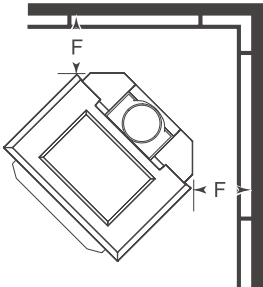
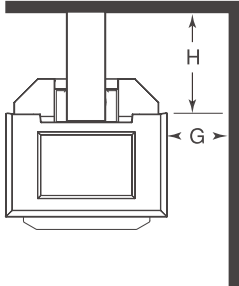
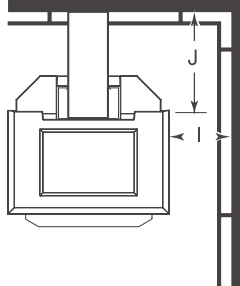
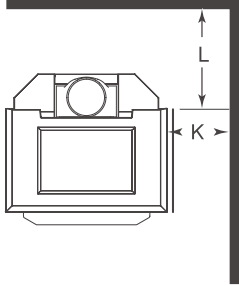
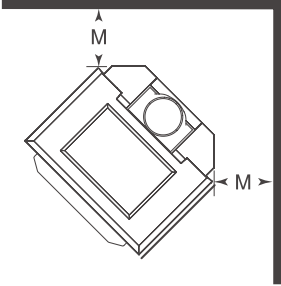
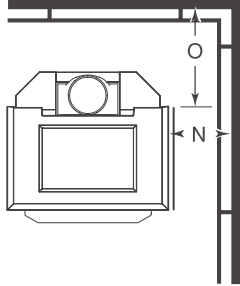
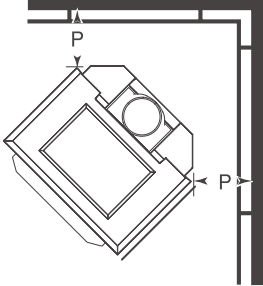
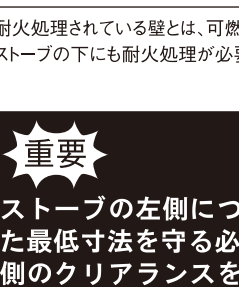
- 1) 最大燃焼時間と最大熱出力は、実験室において、よく乾燥した薪を使用したテストで得られた数値です。これらの数値は、ストーブの運転方法、ストーブのタイプ、薪に含まれる水分の割合などの要因によって異なります。最大燃焼時間は、最大熱出力とは異なる条件下で得られた数値です。
- 2) この数値は、アメリカの建築法に基づいて建てられた家屋で、アメリカ北東部の典型的な冬の気候条件の下で計測されたものです。お客様の家が、この基準以下の建て方であったり、冬の寒さがもっと厳しい地域にある場合は、これらの数値が適用されないことがあります。ストーブの性能には様々な要素が影響します。お客様の家に、どれ位の能力のストーブが必要かについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

安全距離

クリアランスチャート（可燃壁からの安全距離）

ストーブと室内煙突の、可燃壁からの安全距離を調べる場合は、下記の図を参考にしてください。例えば（A）は、ストーブにサイドヒートシールドが付いておらず、側面の壁も耐火処理されていない場合の安全距離の最低値です。（D）は、ストーブにはサイドヒートシールドは付いていませんが、壁が耐火処理されている場合の安全距離の最低値です。

安全距離の測定は、ストーブの天板、あるいは煙突表面から壁までです（壁の耐火処理材までの距離ではありません）。

耐火処理されていない場合		耐火処理されている場合	
壁と並行に設置	コーナー設置	壁と並行に設置	コーナー設置
			
ヒートシールドなしの場合 	N / A		N / A
煙突が後出しで、フルカラー・ヒートシールドがある場合 			
煙突が上出しで、フルカラー・ヒートシールドとサイド・ヒートシールドがあり、煙突ヒートシールドを付ける場合 			

※耐火処理されている壁とは、可燃材と不燃材の間に空気層25mm以上を設けた場合をさします。

※ストーブの下にも耐火処理が必要です。可燃物の上に直接設置した場合は輻射熱により、火災の原因となる危険性があります。

重要

ストーブの左側についている薪投入ドアを活用するためには、「クリアランスチャート」に示された最低寸法を守る必要があります。サイドドアから薪を投入できるようにするには、ストーブの左側のクリアランスを、コーナー設置の場合は最低330mm、平行設置の場合は457mm確保することが必要です。

●モデルFA247 エンライト スモール

	耐火処理されていない場合			耐火処理されている場合		
	平行設置		コーナー設置	平行設置		コーナー設置
ストーブ安全距離	側面	背面(注2)	コーナー	側面	背面(注2)	コーナー
ヒートシールドなし	(A) 585mm	(B) 610mm	(C) 495mm	(D) 180mm	(E) 485mm	(F) 395mm
煙突後出し、フルーカラー・ヒートシールドあり の場合	(G) 510mm	(H) 330mm	N/A	N/A	N/A	N/A
煙突上出し(注1)、 フルーカラー・ヒートシールドと サイド・ヒートシールドがあり、 ヒートシールド付シングル煙突の場合	(K) 410mm 右側のみ	(L) 360mm	(M) 295mm	(N) 180mm 右側のみ	(O) 280mm	(P) 230mm
煙突の安全距離:						
シングル煙突、煙突ヒートシールドなし	495mm			370mm		
シングル煙突(注1)、煙突ヒートシールドと フルーカラー・ヒートシールドあり	245mm			165mm		
ストーブ正面から可燃物までの安全距離:			1220mm			

●モデルFA248 エンライト ミディアム

	耐火処理されていない場合			耐火処理されている場合		
	平行設置		コーナー設置	平行設置		コーナー設置
ストーブ安全距離	側面	背面(注2)	コーナー	側面	背面(注2)	コーナー
ヒートシールドなし	(A) 510mm	(B) 635mm	(C) 395mm	(D) 180mm	(E) 485mm	(F) 270mm
煙突後出し、フルーカラー・ヒートシールドありの場合	(G) 410mm	(H) 305mm	N/A	N/A	N/A	N/A
煙突上出し(注1)、フルーカラー・ヒートシールドとサイド・ヒートシールドがあり、ヒートシールド付シングル煙突の場合	(K) 360mm 右側のみ	(L) 385mm	(M) 195mm	(N) 180mm 右側のみ	(O) 280mm	(P) 180mm
煙突の安全距離:						
シングル煙突、煙突ヒートシールドなし	510mm			360mm		
シングル煙突(注1)、煙突ヒートシールドとフルーカラー・ヒートシールドあり	255mm			155mm		
ストーブ正面から可燃物までの安全距離:			1220mm			

●モデルFA249 エンライト ラージ

	耐火処理されていない場合			耐火処理されている場合		
	平行設置		コーナー設置	平行設置		コーナー設置
ストーブ安全距離	側面	背面(注2)	コーナー	側面	背面(注2)	コーナー
ヒートシールドなし	(A) 535mm	(B) 660mm	(C) 550mm	(D) 205mm	(E) 510mm	(F) 420mm
煙突後出し、フルーカラー・ヒートシールドあり の場合	(G) 585mm	(H) 330mm	N/A	N/A	N/A	N/A
煙突上出し(注1)、 フルーカラー・ヒートシールドと サイド・ヒートシールドがあり、 ヒートシールド付シングル煙突の場合	(K) 385mm 右側のみ	(L) 385mm	(M) 320mm	(N) 205mm 右側のみ	(O) 305mm	(P) 255mm
煙突の安全距離:						
シングル煙突、煙突ヒートシールドなし	510mm			360mm		
シングル煙突(注1)、煙突ヒートシールドと フルーカラー・ヒートシールドあり	230mm			155mm		
ストーブ正面から可燃物までの安全距離:			1220mm			

注1 煙突のヒートシールドは、ストーブのフルーカラーから600mm以上伸びていなければなりません。

注2 各寸法は、ストーブの背面までの距離ではなく、ストーブの天板までの距離です。



以上の寸法が守られずに設置された場合は、炭化など火災につながる危険があります。

組み立て方法

このストーブは、いくつかの組み立て作業が必要です。下記の手順に従い、正確に組み立てを行ってください。

開梱

まず、火室および灰受け皿に入っている部品を全て取り出し、下記の部品が全て入っているか確認してください。ボトム・ヒートシールドは、天板の上の、ダンボールの中にあります。

- ストーブ本体
- ボトム・ヒートシールド※／1ヶ
- 脚／4本
- 灰受け皿／1ヶ
- ウッドハンドル／1本
- 下記の金物が入った袋：
 - ・#10x1/2"ネジ（煙突とフルーカラー固定用）／3本
 - ・ワッシャー（ストーブの脚用）／4ヶ
 - ・ドアハンドルホルダー／1ヶ
 - ・1/4-20x1"六角ボルト（脚固定用）／4ヶ

部品を点検して、不足部品や欠陥部品があった場合は、すぐに販売店に連絡してください。必要な部品が無いまま、あるいは欠陥部品を使用してストーブを組み立てないでください。

※ボトム・ヒートシールドは、ストーブの底から発する熱を床に伝えない役目があります。安全のため、必ず装着してください。

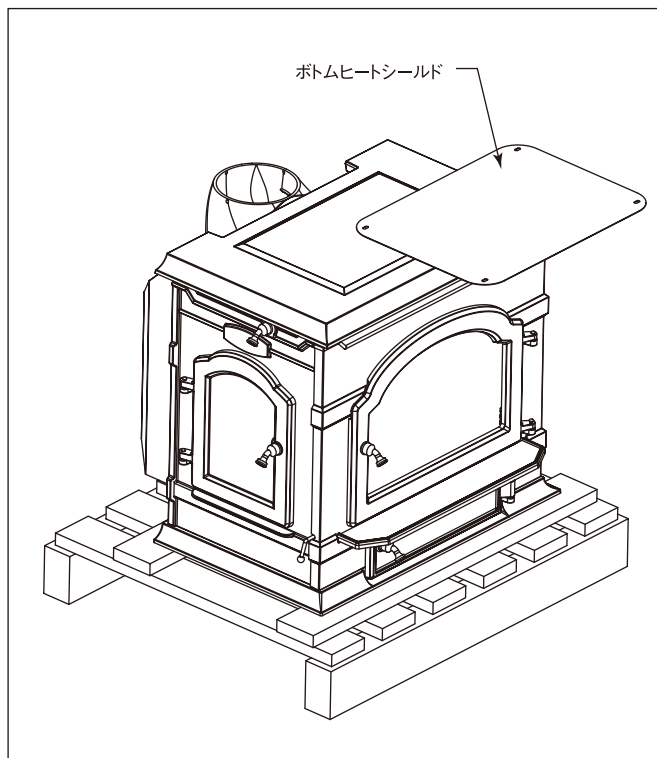


図2 ストーブとパレットを固定しているバンドを切り、ボトム・ヒートシールドを取り除いてください。

脚とボトム・ヒートシールドの取り付け

注意

鋼板部品を傷つけないため、また、火室内部の耐火レンガなどの破損を防ぐため、脚を取り付ける際は、ストーブを倒さずに下記の要領でおこなってください。

- 1) ストーブをパレットに固定しているバンドを切り、ストーブの天板に置かれているボトム・ヒートシールドを取り外してください。（図2）
- 2) 正面の左隅がパレットからはみ出るくらいまでストーブを時計の針と反対方向に回し、脚取り付け穴が見えるようにしてください。（図3）
- 3) 脚取り付け位置にあるボルトを外してください。このボルトは使用しませんので廃棄してください。
- 4) 火室内から脚4本を取り出してください。また、金物袋の中から、ドアハンドルホルダー、（正面の左脚にのみ、ドアハンドルホルダーを取り付けます）、脚用六角ボルト4ヶ、ワッシャー4ヶも取り出してください。
- 5) ボルト、ワッシャー、ドアハンドルホルダー、脚の順番で所定の位置にしっかりと取り付けてください。

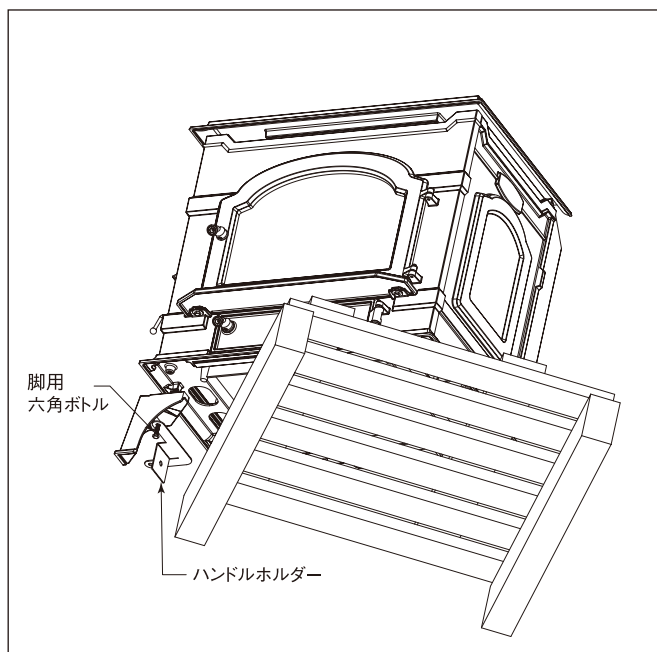


図3 正面の左隅がパレットからはみ出るくらいまでストーブを回します。

- 6) 今度は正面の右隅がパレットから突き出るところまでストーブを回し、脚取り付け位置にあるボルトを取り外します。ボルト、ワッシャー、脚の順番で所定の位置にしっかりと取り付けてください。
- 7) ストーブの後ろ脚についても同じ作業ができるよう、ストーブを回します。6)と同じ手順で、脚を取り付けてください。(図4)
- 8) もう一方の後ろ脚についても同じ手順で取り付けてください。全ての脚の取り付けが終了したら、パレットをストーブの下から取り除いてください。
- 9) ストーブの底の突起物にある六角ボルトを外し、ボトム・ヒートシールドを取り付けてください。取り付けには取り外したボルトを使用します。

床などを傷つけないよう、十分に気を付けながら、ストーブを最終的な設置場所に移動します。すべりの良い床でしたら、絨毯を裏返しにしたものの上に載せると、簡単に動かすことができます。その際、床に傷がつかないように、ゆっくり動かしてください。

所定の位置に設置したら、再度脚のボルトの締め具合を確認してください。

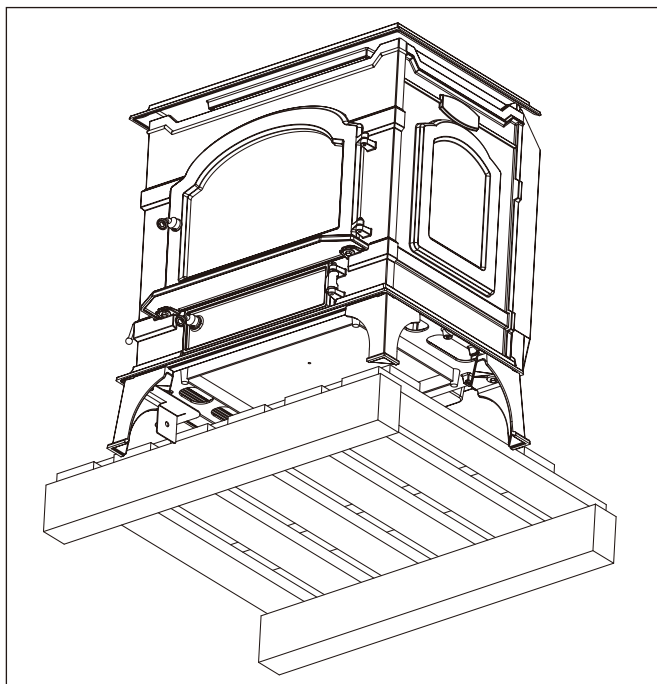


図4 後ろ脚が取り付けられるように、ストーブをずらしします。

ファンキットの取り付け

- 1) ファン本体を、1/4-20x3/4"六角ボルト2ヶ(または、本体に付いているネジ2ヶ)と1/4"スターワッシャー2ヶで、ストーブの背板の内側に固定します。(図5)
- 2) 1/4-20ネジ2ヶ(ストーブの底に付いています)で、スナップスタット(サーモスタット)をストーブ底板に取り付けます。
- 3) レオスタット(スピードコントロール)を、正面の左脚にあるドアハンドルホルダーに取り付けます。レオスタットのコントロールシャフトから六角形のリテーナーリングを外し、コントロールシャフトをハンドルホルダーの穴に通します。取り外したリテーナーリングで固定し、ノブを取り付けます。
- 4) 配線コードを邪魔にならないようにまとめてください。
- 5) ファンは、ストーブが43℃に達するまでは作動しません。また、43℃以下になると停止します(これ以下ですと冷たい風が出てしまうからです)。

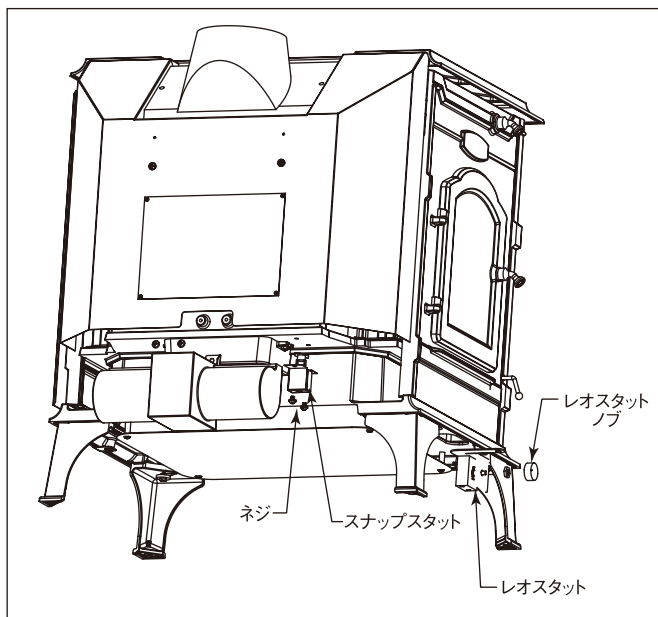


図5 ファンの取り付け

使用方法

設置場所

本体は平らな場所に設置してください。不安定な場所での設置は転倒や脚の破損の原因となります。

引火性のある液体（ガソリン・灯油など）やスプレー缶などを本体の上や近くに置かないでください。爆発や引火による火災の原因となることがあります。

ヒーターの操作方法と特徴

●エアーコントロール（空気調整）の方法

このストーブには、空気の取り込み量を調整できるエアーコントロールが付いています。通常、取り込む空気の量が多いほど燃焼は早くなり、火力は強くなります。逆に、取り込む空気の量を少なくすると、火力は弱くなりますが、その分燃焼時間は長くなります。

エアーコントロール・レバーは、左側面の下方前寄りにあります（ストーブの正面から見えます。図6）。このレバーは、内部にある2つのシャッターを操作するもので、シャッターを開くと、一次燃焼空気を取り込むことができます。

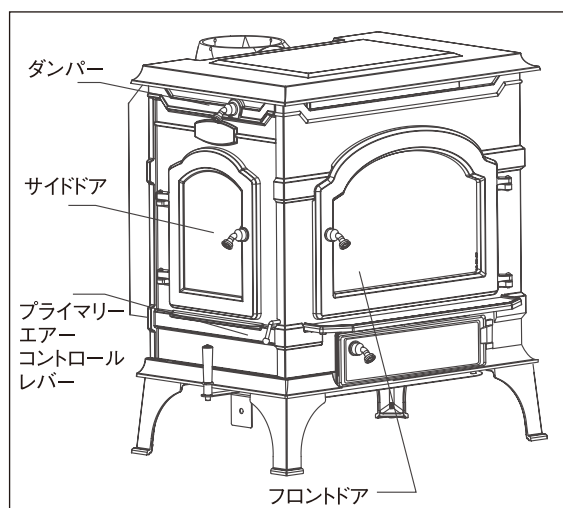


図6 ヒーターコントロール

シャッターを開くには、レバーを時計回りに回してください。レバーが後方に向き、9時の方向をさすと、シャッターは全開になります（図7）。シャッターを閉じるには、レバーを反時計回りに回してください。レバーが真下を指しているとき、シャッターは完全に閉じています（図8）。

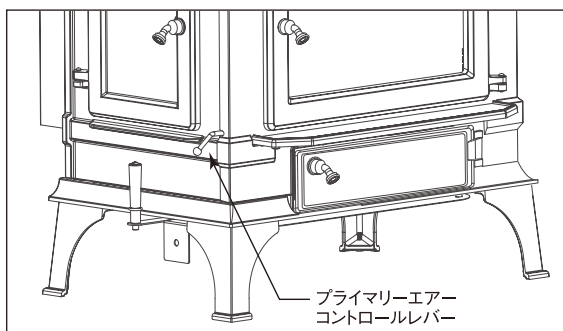


図7 プライマリーエアー・コントロールレバーを時計回りに回すとシャッターが開きます。

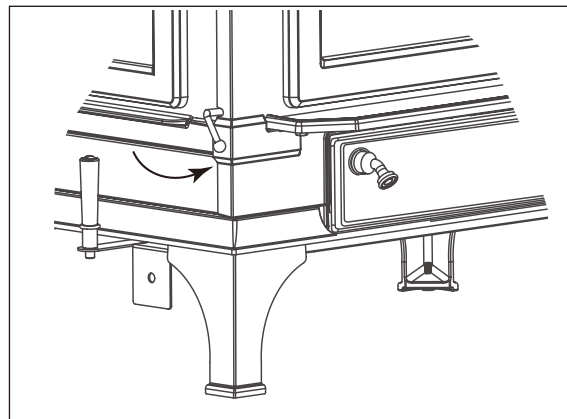


図8 レバーを反時計回りに回すと、シャッターは閉まります。

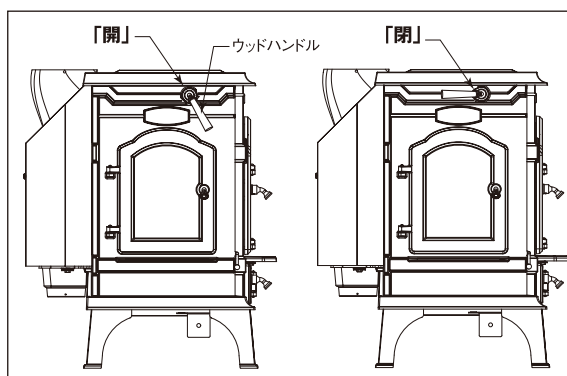


図9 ダンパーの開閉位置

●ダンパーの機能と操作方法

ダンパーは、ストーブの左上方にあるハンドルを動かして操作します（図9）。「開」と「閉」の2つの位置があり、着火の際や、薪を補充する際は「開」にします。通常燃焼時は「閉」にしてください。「閉」の位置から、さらにハンドルを押し込むと「ロックがかかる感触」とともにダンパーが完全に密閉され、隙間から入り込む空気による過燃焼を防ぎます。ダンパーが閉まっている場合、排気ガスは、煙突に抜ける前に、ストーブ内部にある再燃焼ボックスを通過します。これにより、未燃焼ガスが再度燃焼され、排気をきれいにするとともに、燃焼効率も向上させます。

ダンパーハンドルを回す場合は、ウッドハンドルをご使用ください。ダンパーは、反時計回りに回すと開き、時計回りに回すと閉まります。ダンパーを「開」にしたときは、ストーブ内部のダンパーが開いた手応えを感じるはずですが。



着火の際や、薪を補充するなどの理由でドアを開けるときは、ダンパーは必ず開いていなければなりません。

●薪投入ドア

薪はフロントドアからも、サイドドアからも投入することができますが、長い薪の場合は、サイドドアからの方が簡単に入れることができます。いずれにせよ、ドアを開ける前には、必ずダンパーが開いていることを確かめてください。

使用中はフロント、或いはサイドドアを開けたまま本体から離れないでください。火の粉が飛ぶと火災の原因となることがあります。

●薪の上手な焚き方

薪を焚くという作業は、科学というよりも芸術に近いと言われてい
ます。良質の乾いた薪を使い、ストーブの空気取り込みシステムを良
く理解すれば、薪を焚く技術は簡単に身に付けることができます。

●燃料には品質の良い薪を

このストーブは、天然の薪のみを焚くように設計されていますので、
それ以外の燃料は使用しないでください。圧縮加工された木材、
塗装された木、カラー印刷された新聞紙などは燃やさないでください。

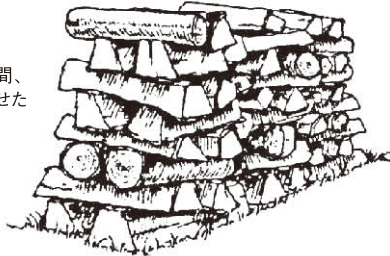


針葉樹や生木に比べて、適度に風にさらされて良く
乾燥した広葉樹は、燃焼効率が非常に良く、排気ガ
スはずっと少なくなります。生木は、水分を含んだクレ
オソートが多く発生しますので、絶対に燃やさないでく
ださい。

最高の薪は、適切に乾燥させたナラ、カエデ、カバ、クヌギなどです。
割った薪は屋外に積み、カバーをかけ、最低1年間は乾燥させてく
ださい。広葉樹が手に入らない場合は、カラマツ、アカマツ、スギ、
ヒノキなどの針葉樹をしっかりと乾燥させてから焚いてください。薪の
長さは、ご使用になるストーブに合わせて切ってください。2年以上
乾燥させた薪は使用しないでください。灰色がかっているような古
い薪は、燃焼速度が速くなりすぎ、ストーブの性能が十分に発揮さ
れないうちに燃え尽きてしまいます。

薪を保管する際は、乾燥を保つために、必ずカバーをかけてくださ
い。また、どんなに短い間であっても、薪はストーブから安全な距離
をとって保管してください。ストーブの周囲には、薪を投入したり、灰
を出したりする作業がしやすいように、ゆとりを持ったスペースを確
保してください。

最良の薪は、
少なくとも1年間、
屋外で乾燥させた
ものです。



●最適なエアークントロールの調整

エアークントロールの調整具合は、これで絶対というものはありませ
ん。ストーブの設置場所、燃料の質、部屋の広さ、どのくらい長く燃
焼させたいかなどによって異なります。

エアークントロールの調整は、ストーブから煙突までのドラフトによっ
ても異なります。ドラフトに影響を与える要素としては、煙突の高さ
や種類、煙突の設置場所、立地条件、近くにある大きな障害物（建
物や木立など）などがあります。

あまりにも強いドラフトは、ストーブ内の温度を異常に上げ、ストーブ
本体や再燃焼ボックスの破損につながります。逆に、ドラフトが弱ず
ぎると、煙が室内に逆流したり、煙突が詰まりやすくなります。

ドラフトが強すぎるのか弱すぎるのかは、ストーブや煙突の様子を見る
とわかります。ドラフトが強すぎると、ストーブや煙突の一部が、過熱し
て赤くなるという症状が現れます。ドラフト不足の場合は、ストーブや
煙突の連結部分から煙が室内に漏れてくるという症状が現れます。

ストーブの使い始めの内は、毎回、どのような調整をしたか、記録し
ておくようにしてください。1～2週間もすれば、様々な状況での、最
適なセッティングが分かるようになるでしょう。

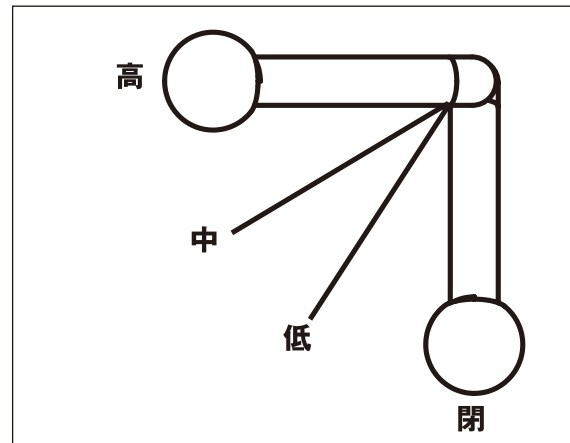


図10 燃焼温度ごとのプライマリーエアークントロールレバーの位置

マグネット式のストーブ温度計（オプション）を、本体左側面（
サイドドアの右上あたり）に取り付けておくことをお勧めいたし
ます。この部分は唯一、火室と直に接しているところであり、
薪の投入などで頻繁に目にするところでもありますので、火室
内の温度を測るのに最適な場所です。

最適な火室内の温度は、通常上記温度計表示の400～
650°F（190～330℃）の範囲内です。これ以上の温度になり
ますと、鋳鉄の組織が分解され、鋳物自体が割れてしまいます
。逆に、これ以下の温度になりますとクレオソートが発生し、煙
突内に付着してしまいます。このように、火室内の温度は、ス
トーブや煙突に重大な影響を及ぼしますので、常に細心の注
意を払って温度管理を行ってください。ストーブの熱出力や燃
焼時間の調節は、空気の量を調節することにより行えますが、
一度に投入する薪の量を調節することによっても行えます。

煙突のドラフトを最適に保つには、天候の変化を絶えず気にかけ
ることが必要です。屋外の気温が高くなったり、気圧が低くなったり
すると、ドラフトは弱くなります。逆に、屋外の気温が低くなり、気圧
が高くなると、ドラフトは強くなります。ただし、屋外煙突の露出部
分が多い場合は例外です。煙突が外気によって冷やされてしまい、
排気ガスの温度も下げてしまうからです。とくに屋外の気温が非
常に低いときはなおさらです。

ストーブと煙突が適切な設置がされており、十分なドラフトがあれば、
とくに大量の空気は必要ではありません。ストーブの火力を上げ
ようとして、エアークントロールの調整を、指示以上の範囲にま
で回すようなことはしないでください。

最近の住宅は、断熱性や気密性が非常に高いため、室内の空気
が不足しがちになり、ドラフトが弱くなります。このような場合は、ス
トーブに近い風上側の窓を少し開けると、新鮮な空気が入り、正常
に燃焼するようになります。

燃焼空気を十分に取り込むためのもっと良い方法は、ストーブの
近くに、屋外の空気を取り込む吸気口を設けることです。

図10の燃焼空気のセッティング方法を参考にして、様々な状況
をお試しになり、お客様のストーブに最適なセッティング方法を見つ
けてください。



灰受扉を開けたままの状態ですトーブを使
用しないでください。異常燃焼を起こす恐
れがあり大変危険です。

着火と継続燃焼方法

●薪の投入

このストーブは、正面からでも側面からでも薪を投入することができます。着火の際や、少量の薪を足すようなときには、正面からの方が使いやすいでしょう。何本かの薪を同時に投入する際は、側面からの方が入れやすく便利です。いずれのドアを使う場合でも、ドアを開ける前に、必ずダンパーが開いていることを確認してください。

警告：

ストーブを使用するときは、必ず全てのドアが閉まっている必要があります。運転中のストーブは高温になりますので、小さなお子様、衣類、家具などを近づけないようにしてください。

重要

●慣らし運転

新しいストーブの場合、あるいは新しい鋳物部品に交換した場合は、慣らし運転が必要です。鋳物は非常に強固な材料ですが、急激な温度変化を受けると壊れることがあります。そのため、必ず慣らし運転を行い、鋳物を徐々に熱に慣れさせる必要があります。この慣らし運転をするか、しないかで、耐久性が大きく変わります。次に示すステップ1～3の手順を、3、4回繰り返してください。この際、ダンパーは開けておき、閉めません。プライマリーエアー・コントロールを調整して、弱い火力を保ってください。ただし、煙が部屋に戻ってしまうほど小さくはしないでください。慣らし運転が済んだら、ステップ4に移ります。使い始めの2、3回は、ストーブの塗料やセメントが焼ける匂いがします。匂いがするうちは、窓を開けて換気を行ってください。

●点火

ステップ1 ダンパーを「開」にします。プライマリーエアー・コントロールを全開にします。

ステップ2 ストーブの中に丸めた新聞紙を入れます。この上に、よく乾燥した、指の幅大に割った焚き付けを6～8本載せ、さらにその上に、よく乾燥した25～50mmほどに割った薪を2、3本載せます。

着火には、絶対に化学薬品や薬剤を使用しないでください。ガソリンやエンジンオイルのような燃えやすい液体や、生ゴミなどは絶対に燃やさないでください。また、ランタン用の燃料や灯油なども、着火や再燃焼用には、絶対に使用しないでください。

ステップ3 新聞紙に火をつけ、ドアを閉めます。10～15分くらいで燃焼が安定してきます。少しずつ薪を足していくと、徐々に火が大きくなります。薪の下に熾きが溜まるまで燃やし続けてください。

ヒント：

煙突が冷えている場合は、事前に煙突を暖め、十分な吸い込みを発生させる必要があります。その場合、新聞紙を2、3枚丸めて、焚き付けの上や後方に置き、火をつけてドアを閉めます。これで煙突が暖まり、十分なドラフトが発生します。ドラフトが発生したらフロントドアを開き、燃料に着火してください。煙突に吸引力がつくまでは、主燃料は燃やさないでください。一度で吸引力がつかない場合は、二度、三度と繰り返してみてください。

慣らし運転の際、煙突の表面から煙が出ることがありますが、これは表面の塗料が焼けることで発生します。最初の1、2回でおさまりますが十分な部屋の換気をおすすめします。

ステップ4 火が安定して燃えてきたら、グレート上に火床ができるまで薪を足してください。火床は、火室後部中央にある再燃焼ボックスに抜けるスロート（炉喉）の開口部を覆う位の厚さ（約5cm）が必要です。

ステップ5 熾きの火床が形成されたら、ストーブを効率高く運転する用意をします。まずは薪を追加してください。小さく割った薪から入れ始め、次第に大きな薪にしていきます。

大きな薪に火がまわったらダンパーを閉め（本体左側面に付けた温度計で約200℃がベストなタイミングです）、エアーコントロール・レバーを「高」の位置にします。新しく投入した薪に完全に火がまわるよう、エアーコントロールを最大にして15-20分燃焼させます。燃料が安定して燃えるようになったら、望みの熱出力が得られるようエアーコントロールを調整してください。エアーコントロールの設定については、7Pを参照してください。

注意

ストーブの過剰燃焼にご注意ください。過剰燃焼は火災の原因になりますし、ストーブ本体の損傷にもつながります。ストーブの表面や煙突の一部が赤くなっていたら、過剰燃焼の状態にあるということです。急激な温度変化（急加熱・急冷却）を与えると本体を損傷させる原因となりますのでご注意ください。

●薪の補給と火力の回復

熾きがたくさんあるうちに薪を追加すると、すぐに火力を回復することができます。細い薪も一緒に足すと、あっという間に高温にすることができます。

薪を追加するときは、次の手順で行ってください。

- ダンパーを開き、プライマリーエアー・コントロールレバーを「高」の位置にします。
- フロントドアを開け、グレートの上と灰受け皿にある灰の厚さをチェックします。グレート（とくに奥の方）の灰が多すぎる場合は、捨ててください。必要に応じて灰受け皿の灰を捨てましょう。
- 灰受け皿を元に戻して、フロントドアを閉めてください。
- 薪を投入します。細い薪を最初に投入し、次第に太い薪を入れるようにしてください。
- ダンパーは、熱によって強力なドラフトが発生するまで（約15～20分）は閉めないでください。
- ダンパーを閉め、エアーコントロール・レバーを望みの暖かさになるよう調整します。

ヒント：

火床がかなり厚くできていて、よく乾燥した薪をご使用の場合は、早めにダンパーを閉め、エアーコントロールを元の設定に戻しても構いません。

ヒント（上級編）：

火床をショベル等のツールで奥側に寄せ、つまりシュリーフラクトリーの空気孔をある程度灰で塞ぐことにより、燃焼時間を著しく伸ばすことができます。しかし同時に空気の供給量が減り、燃焼低下の可能性も高まりますので、経験が必要です。

●消化について

火室内の火は瞬時に消えるものではありません。エアーコントロールレバーを「閉」にしても、完全に空気の供給が遮断されるものではありません。

●灰の処理

灰を取り出す際は、ストーブ用の革手袋をはめて行ってください。燃料を補給する際は、必ず灰受皿を点検し、灰が一杯に溜まっていた場合は捨ててください。灰受皿を戻す前に、灰受け皿の横や後にこぼれている灰もきれいに取り除いてください。

灰受皿は定期的に空にしてください。基本的な頻度は、1～3日に一度ですが、これはストーブの使用状態によって異なります。火力を高くすればするほど、薪をたくさん使用しますので、灰が溜まるのもそれだけ早くなります。

ヒント：
グレート上の灰は全て取り除かないでください。2～3 cmほど残しておきますと、次の着火がしやすくなりますし、断熱効果も増します。グレートの保護にもなります。

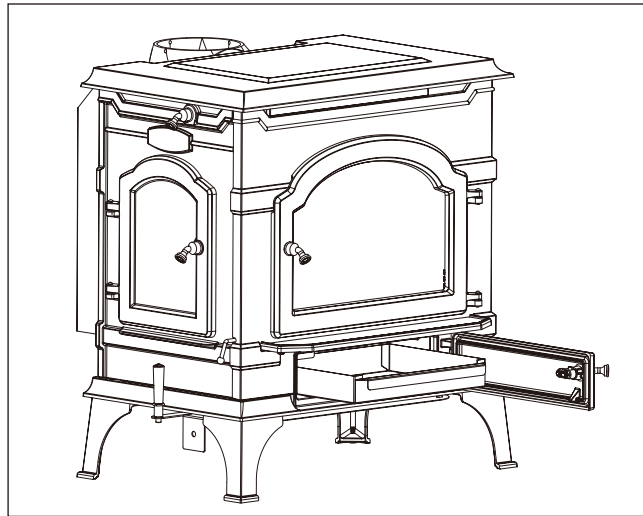


図11 薪を投入する前に、灰受け皿の灰もチェックしてください。

●安全な灰の処理方法

灰には熱い熾きが入っている場合がありますので、取り扱いには十分な注意が必要です。取り出した灰は、しっかりと蓋が閉まる金属製容器に入れ、屋外で保管してください。最終的な処理をするまでは、不燃性の床や地面に置き、可燃物との距離も十分に確保してください。灰は園芸用の肥料として利用できますが、完全に冷めたのを確認してから使用してください。

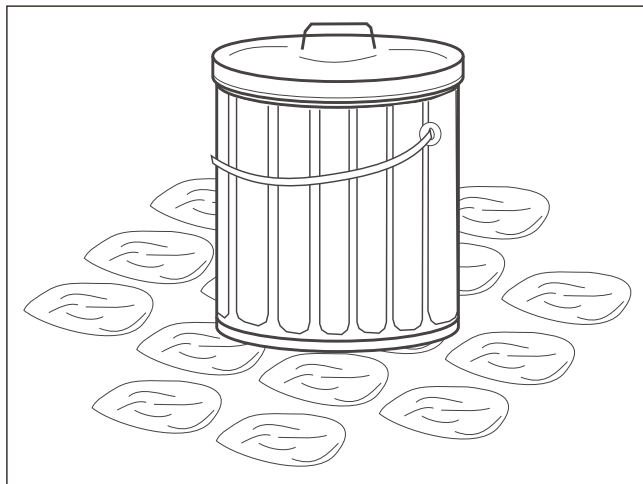


図12 熱い灰は非常に危険です。しっかりと蓋の閉まる金属性の容器で、屋外の安全な場所に保管しましょう。



ストーブの灰は掃除機で吸い取ってはいけません。灰は必ず指示された方法で取り除いてください。

メンテナンス

ストーブのお手入れ

● 鋳鉄部分のお手入れ

乾いた布で時々ほこりを拭き取りますと、鋳物の表面を常に新しい状態に保つことができます。

また、必要に応じて、表面のペイントを補修することもできます。この場合、必ずストーブが完全に冷めたのを確認してから行ってください。まず、補修したい表面をワイヤーブラシなどできれいに掃除をしてください。真鍮部品やガラスなどにはマスキングテープを貼り、塗料がつかないように保護してください。その後、専用の耐熱塗料を使用し、塗装を行ってください。屋内で作業をする場合は、十分に換気を行ってください。塗装は、厚塗りを1回するよりも、薄塗りを2回した方が、きれいに仕上がります。

付着した水分、塩分は錆の原因になりますので放置せず取り除いてください。

● ガラスの清掃

ガラスに付着した汚れのほとんどは、火力が高温になるにしたがい焼け落ちてしまいます。ガラスに付着した汚れを拭き取る場合は、乾いた新聞紙を丸めたものを使用してください。絶対に熱くなっているガラスを、液体のクリーナーで掃除しないでください。それでも汚れが取れない場合は、以下の手順で清掃してください。

- ・ガラスが完全に冷めていることを確認してください。
- ・専用のガラスクリーナーを塗り、乾いた布で拭き取ってください。
- ・ガラスを完全に乾かしてください。

● ドアラッチ (掛け金) の調整

ストーブ本体とドアの間の気密性を保つため、ドアラッチは常に固く閉まるようにしておかなければなりません。ドアは頻繁に開閉するところですので、ドアラッチは定期的に調整を行う必要があります。調整は次のような手順で行ってください。

1. スモール・ロッキングナットをスパナでゆるめます。
2. 付属の六角レンチを使用し、ストライカースクリューを時計回りに1/4回転させ、ドアを閉めて、締め具合 (固さ) を確認します。掛け金が硬く締まっていない場合は、さらに少しずつ回転させ、しっかり締まるように調整します。
3. ストライカースクリューが適切に調整できたら、スモール・ロッキングナットを固く締め付け、ストライカースクリューが回らないように固定します。

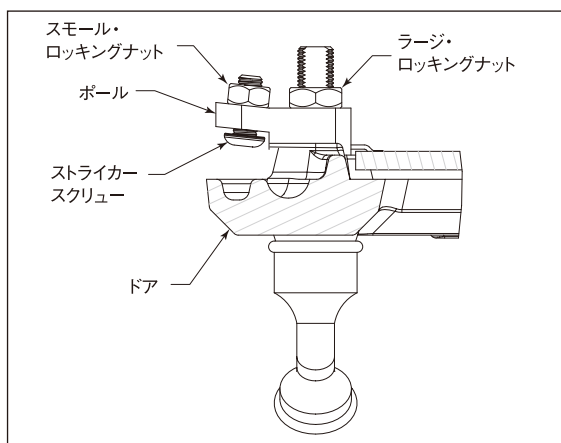


図13 ドアラッチの調整

● ドアガasketの点検と修理

ドアガasketに、一部でもへたっているところがあると、そこから空気が漏れ、このストーブの特徴である気密性が損なわれることがあります。へたっている場所を確認するには、紙を一枚はさんでドアを閉めてみてください。紙を引っ張ってみて、破けずに、簡単に抜けてしまうようであれば、ガasketに問題がある証拠です。

ドアラッチを調整しても改善されない場合は、ガasketの調整をする必要があります。現在ついているガasketを持ち上げ、少量のセメントかガasketを溝に詰めてください。本来のガasketが持ち上がり、ドアフレームとしっかり接触するようになります。

このような調整をしても、まだ紙が抜けるようであれば、ガasketを交換しなければなりません。以下の要領でガasketの交換を行ってください。

1. 現在ついているガasketの端を、しっかりと掴んで引っ張り、取り除きます。
2. 安全メガネをかけ、ワイヤーブラシかドライバーの先端を使って、溝の中に残っているセメントやガasketのカスをきれいに取り除きます。
3. 古いセメントを取り除いた溝の中に、耐火セメントをビーズ状に注入します。
4. 溝の中に新しいガasketをはめ込みます。ガasketの端は5～6cm余裕を残して切断してください。
5. ガasketの両端がほどけたり、重なったりしないように接着し、余分を切り落としてください。
6. 溝の周囲にはみ出したセメントを取り除いた後、ドアを元に戻し、閉めて、24時間以上常温で乾燥させてください。
7. 乾燥させた後、ドアに紙をはさみ、密閉度を確認してください。明らかに密閉度が不足している場所があれば、セメントを足すなどして調整してください。

フロントドア、サイドドア、灰受けドア、天板、ダンパー、インナートップ、には3/8"ガasketを、ガラスフレームには1/4"ガasketを、フルカラーには5/16"のガasketが使用されています。

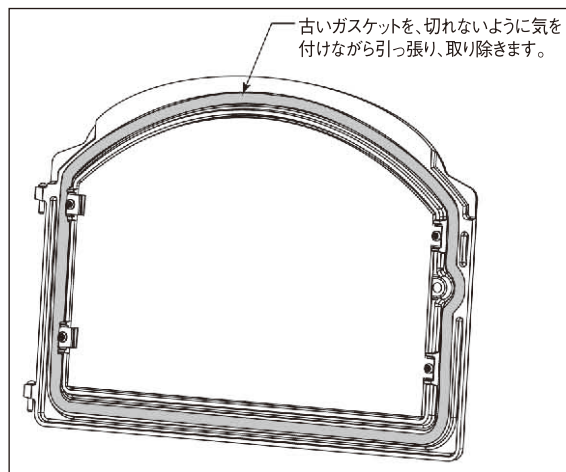


図14 ドアガasket

●ガラスの破損に注意

乱暴にドアを閉じたり、薪でガラスを叩いたりしないでください。また、ガラスにひびが入ったり、割れたりした場合は、ストーブを使用しないでください。ガラスを交換する場合は、必ず当社の純正品をご使用ください。

●ダンパーの調整

ダンパーは、長い間、開け閉めを繰り返すことによって、調整が必要になってきます。ダンパーのテストは、ストーブが完全に冷めた状態で行ってください。「閉」の位置に回した際、ダンパーがしっかりと閉まった感触がしなければなりません。ただし、きつすぎてもいけません。（ストーブが加熱されると、多少きつくなります。）調整が必要な場合は、7/16”のソケットレンチを使用し、連結部を調整します。ダンパーの調整は、以下の要領で行ってください。

- 1.まず、ストーブの火室内にある、天板とストーブを固定しているナット2本を外し、天板を取り外します。
- 2.ダンパーを開きます。
- 3.アジャスティングボルトのロックナットをゆるめます。（図15）
- 4.アンカーボルトのロックナットをゆるめます。
（ロックナットはダンパーの裏側にあります。）
- 5.アンカーボルトを1、2回転まわしてください。
- 6.アジャスティングボルトを締めます。
- 7.ダンパー開閉具合をテストしてみます。必要に応じて、さらに調整してください。
- 8.調整が終了したら、アジャスティングボルトのロックナットを締め、次いでアンカーボルト、アンカーボルトのロックナットを締めます。
- 9.作業終了後はP6で説明されている「ロックされる感触」があるか作業確認してください。

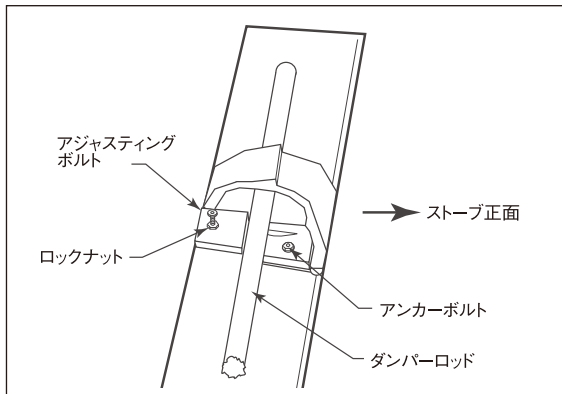


図15 ダンパーの調整

●プライマリー・エアーコントロールの調整

プライマリー・エアーコントロールは、手で簡単に動かせるほどのゆるさが必要でし、設定した位置から動かないほどのきつさも必要です。レバーの張力は、スプリングとタブを使用した、簡単な構造によって維持されています。

このエアーコントロールのレバーは、使用していくにしたがい、張力が狂ってしまうことがあります。この張力を調整するには、以下の要領で行ってください。

- 1.ストーブを室温まで冷まします。
- 2.サイドドアを開いて、ストーブのフロントパネルの内側をのぞき込んでください。（図16参照）
- 3.7/16”のレンチで調整ネジを回してください。時計回りに回すと、張力が強まり、反時計回りに回すと、張力は弱まります。少しずつ回して、動き具合を試してください。反時計回りに回しすぎるとネジが外れてしまいますのでご注意ください。

ストーブが加熱されると、各可動部の動きは多少きつくなりますので、このことも考慮の上、エアーコントロールを調整してください。

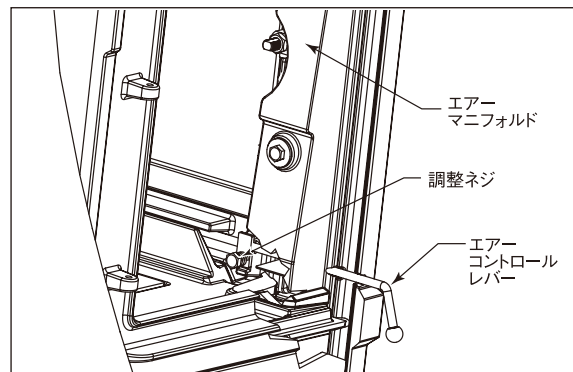


図16 プライマリー・エアーコントロールの調整

お客様ご自身の判断による改造はしないでください。本来の性能を発揮できないだけでなく、破損や火災の原因となることがあります。

重要

煙突のお手入れ

●煙突の清掃

煙突は、少なくとも毎月2回は点検して、必要に応じて掃除をしましょう。

ストーブの使い始めの内は、毎日クレオソートの付着具合を点検してみてください。クレオソートは、粘着性のあるタール状、または乾燥したフレーク状の物質です。経験を積むにしたがって、どのくらいの頻度で掃除をすればよいかがわかってきます。頻度は季節によって異なります。寒い季節には火力を高めに設定するため、クレオソートは燃え尽きてしまいます。そのため、掃除は2～3ヶ月に一度でいいでしょう。寒さがゆるんで、それほど高温で焚かなくなる季節には、クレオソートが溜まりやすくなりますので、毎月掃除をする必要があるかもしれません。ストーブの使用期間中は、少なくとも2ヶ月に一度は点検をして、クレオソートやススがたまっていないかどうかを点検してください。クレオソートやススが3mm以上付着していたら、火災が起こる危険性がありますので、必ず除去してください。

煙突火災は以下のような段階を経て発生します。

- ・ストーブを低い温度で燃焼させると、タールやその他の有機性の蒸気が生成され、これが水分と結合してクレオソートが発生します。
 - ・クレオソートを含む蒸気は、比較的冷たい煙突内では凝縮しやすくなります。
 - ・その結果、クレオソートの残留物が煙突の内側に付着します。
 - ・クレオソートは可燃性物質のため、何かの拍子に着火すると、煙突内に非常に高温な炎が発生します。
 - ・その結果、煙突が損傷するだけでなく、煙突の周囲にある木材なども加熱させ、損傷を与えます。クレオソートの生成量を減らすには、十分な燃焼空気を供給して、不完全燃焼を起こさないようにし、規模は小さくても、強力な火を維持することです。
- 万が一の煙突火災に備え、事前に、消火方法などを確認しておくことをお勧めいたします。

●煙突の定期点検

煙突は、月に2回以上点検し、必要に応じて掃除をしてください。煙突内の点検は、ストーブが完全に冷めてから行ってください。懐中電灯と鏡を使って、煙突掃除口から中を見てみます。掃除口がない場合は、煙突をストーブから外して点検します。煙突掃除には、煙突の内径に合った煙突掃除用ブラシを使用してください。ブラシには、専用の棒かロープを装着して、上下に動かし、付着物を落とします。落とした付着物は、きれいに取り除いてください。室内煙突は1本ずつ分解し、屋外で、ワイヤーブラシなどを使用して付着物を除去します。掃除が終了したら煙突を元に戻しますが、このとき、必ず3本のネジで、各部分（スライド部分は除く）をしっかりと固定させなければなりません。

メンテナンススケジュール

■ ストープ

● 日常のお手入れ

- ・灰は、灰受皿に一杯になる前に取り除いてください。最低1日に1回は灰の溜まり具合を点検してください。
- ・ストーブの周りをきれいに片付け、近くに可燃性のものを置かないようにしてください。

● 2ヶ月ごとのお手入れ

- ・ドアラッチが適切に締まっているか点検してください。
ガスケットは、一定期間が経過するとつぶれてしまいますので、必要に応じてドアラッチの締め具合を調整してください。
- ・脚のボルトとヒートシールドのネジを点検し、必要に応じて締めてください。

● シーズン終了後のお手入れ

- ・ガスケットの減り具合を点検し、必要に応じて交換してください。
- ・火室内と灰受皿の灰を捨て、吸湿剤（猫のトイレの砂など）を入れて、ストーブ内部を乾燥させてください。
- ・火室後部にある再燃焼ボックスを取り外し、内部のススなどを取り除いてください。
この部分はとても壊れやすい素材でできていますので、取り扱いには十分注意してください。
- ・ダンパーロッドなどの可動部に潤滑油を塗ってください。
こうすることにより、ストーブを使用しない時期の錆付きを防止することができます。
- ・ストーブ内部の、各部品を固定しているボルトを一度ゆるめ、再度締め直してください。
長い期間この作業をしないと、ボルトが熱と錆で固着してしまい、外れなくなることがあります
- ・ストーブ内部に付着しているススやタールを、ワイヤーブラシなどで取り除いてください。
ススやタールが付着したまま放置すると、錆鉄を傷める原因になります。
- ・ストーブ全体のほこりを取り除いてください。ストーブの表面にほこりがついていると、熱の発散が妨げられてしまいます。
- ・塗装が剥がれている場合は、純正の耐熱塗料で補修をしてください。

■ 煙突

● 2週間ごとのお手入れ

- ・煙突内部を点検し、必要に応じて掃除をしてください。

● 2ヶ月ごとのお手入れ

- ・煙突内部を点検してください。
とくに曲がりと水平部分はススが溜まりやすいので、念入りに点検し、必要に応じて掃除をしてください。

● シーズン終了後のお手入れ

- ・ストーブの口元からトップに至るまでの、全ての煙突を点検し、掃除を行ってください。
煙突に付着したクレオソートを放置しておくと、正常な燃焼を妨げるばかりか、煙突火災を引き起こす原因にもなります。
- ・煙突内部に異物（鳥など）が入らないように、煙突トップにアミやカバーを付けてください。
- ・各煙突部材を点検し、金具のゆるみや、シーリングの劣化などがあれば補修してください。
また、損傷がある場合は、新品と交換してください。

ドラフト管理

ストーブは、煙突、使用する人、燃料、家屋からなる、1つの総合的なシステムの一部だと思ってください。こうしたストーブ以外の要素が、ストーブの調子に大いに影響してくるのです。全ての要素の相性がよいと、ストーブは効果的に働きます。

薪ストーブの性能は、ドラフト（自然の通風力）次第です。ドラフトとは、煙突の先端部分で、排気ガスの温度が屋外の空気より高い（つまり、軽い）ときに起こる空気の動きです。温度差が大きければ大きいほど、ドラフトは強くなります。熱い排気ガスが煙突から上がると、吸引力が起こり、空気がストーブに引き込まれて燃焼空気となります。ストーブ本体の空気取込口を最大に開けて、強火で燃やしていると、ドラフトは強くなります。空気取込口から空気を多く取り込み、盛んに火を焚くとよいドラフトが発生しますが、この空気取込口は受け身であり、取り込む空気の量の調整はできません。最近の薪ストーブは、燃焼用空気の量を調整することができます。こうした薪ストーブの効率、煙を暖かいまま屋外に排出できるか否かで変わってきます。煙突が鉄製か、レンガ製か、家の内部にあるか外部に出ているのか、ストーブのフルーカラーにびったりはまるか否かといった煙突の特徴は、強力なドラフトを早く起こせるか、最適な温度を長時間維持できるかに、大きな影響を与えます。次に様々な煙突システムの影響と、それがストーブの性能に与える影響についてご紹介いたします。

●レンガや石造りの煙突

レンガや石は伝統的な煙突素材ですが、燃焼が調整できる近代的な薪ストーブを使うには不向きです。これらの煙突は、「熱の落ち込み」がはっきりと出ます。長期間燃やしていると、レンガや石が熱を吸収・蓄積しますが、煙突には多量のレンガや石が使用されているので、これら全てが強いドラフトを起こせるまで熱くなるまでには、時間がかかり過ぎます。冷えた煙突は、排気ガスの温度を上げないどころか、ドラフトの力を消してしまいます。もしも、煙突が屋外に出ていたり、煙突の断面積がストーブの排気口よりも大きい場合は、この問題はさらに深刻になります。

●スチール製の煙突

工場製のスチール煙突のほとんどが、断熱効果のある多重構造になっています。内側の煙突は高温になりますが、内側煙突と外側煙突の間に、高性能な断熱材が充填されているため、外側の煙突には熱が伝わらず、周囲の構造物を高温から守り、また、煙突内を通る煙の温度も下げません。

スチール煙突の内側の煙突は、レンガや石の煙突にくらべ、非常に早く温度が上昇します。外観的にはレンガや石の煙突の方が風情がありますが、スチール煙突の方が耐久性、性能とも非常に高いのです。

●煙突の設置場所

煙突の機能は、煙を熱い状態のまま排出することですので、煙突は家の中にある方がベストです。煙突を家の中に設置すると、外気の影響を受けることもなくなりますし、煙突からの放射熱が家の中に発散されることにもなります。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくて済むということにもなります。

●煙突のサイズ

ストーブの煙突のサイズは、ストーブのフルーカラーと同じ大きさでなくてはなりません。煙突がフルーカラーよりも大きいと、排気ガスが薄まり、上昇気流が失われます。6”のフルーカラー（28平方インチ）のストーブに、10”×10”の煙突をつなげると、排気ガスは最初の量の1/3に薄まります。その結果、ガスの温度が下がり、ドラフトも弱まります。また、大きすぎる煙突が屋外にある場合は、外気で冷やされますので、さらに煙の温度を下げてしまいます。

一般的に、レンガや石でできた煙突は、ストーブに対して大きすぎます。このような煙突は暖まるまでかなりの時間がかかり、その結果、ストーブが思い通りに温度が上がらないということになります。大きすぎる煙突に対する一番よい解決方法は、ストーブのフルーカラーと同じサイズの、断熱式スチール煙突ライナーを取り付けることです。このライナーをつけることにより、排気ガスを暖かく保つことができますので、強力なドラフトを発生させることができます。断熱式ではないライナーを取り付けることもできますが、この場合、ライナーの周りの空気を暖めるのに時間がかかりますので、その間の熱エネルギーを消費することになってしまいます。

●煙突のレイアウト

煙突の曲がりは、ストーブから煙突トップに至る排気の流れにとって、障害になります。理想的なレイアウトは、ストーブから煙突トップまで曲がりがなく、まっすぐ上に伸びるタイプです。ストーブの性能が最もよく発揮され、メンテナンスも容易ですので、できるだけこのようなレイアウトにしてください。どうしても曲がりが必要な場合は、ストーブのフルーカラーと、二重煙突の接続部の中間に曲がりがあるようにしてください。このように配置した方が、排気ガスのスピードが上がり、スピードアップした状態で曲がりを通過しますので、スムーズな排気ができるようになります。

●煙突の共有について

ストーブの煙突は、ストーブ専用とし、他の機器と共有させないでください。ドラフトは自然なエネルギーのため、抵抗が少ない方に進んでしまいます。ストーブの煙突が別の暖炉や、その他の機器に接続されていると、これらの機器からも空気を引き込んでしまいます。このようにして取り込まれた余分な空気の流れは、排気ガスの温度を下げ、ドラフトを失わせ、クレオソートをより多く発生させてしまいます。多くの機器を接続した煙突は、ホースに穴が開いた掃除機のようなものです。最悪の場合、他の機器のドラフトが負のドラフトを起こし、その結果、危険なドラフトの逆流が起こってしまいます。

●燃料

ストーブが最高の状態で据え付けられたとしても、燃料が悪いと良い燃焼は得られません。必ず、1年から1年半かけて乾燥させた、広葉樹を使用してください。針葉樹は広葉樹よりもよく燃えますが、クレオソートの原因となる樹脂が多く含まれています。腐りかけた木は、燃やしてもあまり熱を発生しませんので、使用しないほうがよいでしょう。

切ったばかりの生木は、水分を多く含んでいますので、熱のほとんどは木が燃える前に、水分を蒸発させるために使われてしまいます。このため、本来の熱量が減るだけでなく、火力や排気ガスの温度まで下げてしまいます。また、不完全燃焼と排気ガスの低温化のため、クレオソートの生成が促進され、ドラフトも弱まってしまいます。薪に含まれている水分量は、見た目や重さから推測できますが、市販の湿度計を使用すると正確に測ることができます。乾燥していない木の重さは、乾燥した木の3倍あります。また、木は乾燥すると縮むので、割れ具合でも判断することができます。割れ目が長く、幅が広いほどよく乾燥しているということです。

●クレオソート

クレオソートは、ストーブを低温で燃焼させたときの副産物です。排気ガスの温度が149℃以下になると、不完全燃焼のガスが煙突の中で凝縮します。その結果できるタールがクレオソートです。クレオソートは揮発性なため、煙突火災を引き起こす恐れがあります。煙突のドラフトにとってマイナスな据え付けは、クレオソートの生成を促す要因となります。つまり、適切な煙突の設計や、ドラフトを高めるような運転をすることにより、クレオソートの生成を最小限に抑えることができるということです。頻繁に煙突内部を点検し、3mm以上のクレオソートが付着していれば、煙突掃除を行ってください。

●バックパフ

バックパフとは、ドラフトが弱くて、煙突の吸引力が弱すぎるために、燃焼速度に合わせて排気ガスを排出できないときに起こる現象です。火室で発生した不完全燃焼ガスが、一定の濃度と温度に達したときに点火され、「ボン」という音とともに、煙が空気取込口より出てきます。

バックパフは、外気温がゆるみ、弱火で燃焼するようになる春先によく起こります。弱火で燃焼するようになると、ドラフトが弱まりますので、バックパフが起きやすくなります。バックパフが起きた場合は、空気取込口を大きく開き、火を勢いよく燃えるようにして、ストーブから煙突にかけてのドラフトを適切な状態にします。また、一度にたくさんの薪を入れないようにしてください。低燃焼時にたくさんの薪を入れると、着火する前にいぶされて、未燃焼ガスを多く発生することになります。

●ドラフトのテスト

十分なドラフトがあるかどうかを調べるには、まず、ダンパーを閉め、空気の流れが落ち着くまで数分待ちます。その後、エアーコントロールを開閉して、火力を変化させられるかどうかを確認します。火力の変化はすぐに現れない場合がありますので、その場合は、しばらく様子を見てください。火力に何も変化が起こらない場合、ドラフトはダンパーを閉めるほど強くなっていないということです。ドラフトが増すまで、もうしばらくダンパーを開けたままにして、火室に空気を多く取り入れてください。エアーコントロールや、薪の入れ具合などの運転状況を記録して、ストーブ機能の効果と関連付けてみてください。この作業をすることにより、安全かつ効率よくストーブを運転できるようになります。

●負の圧力

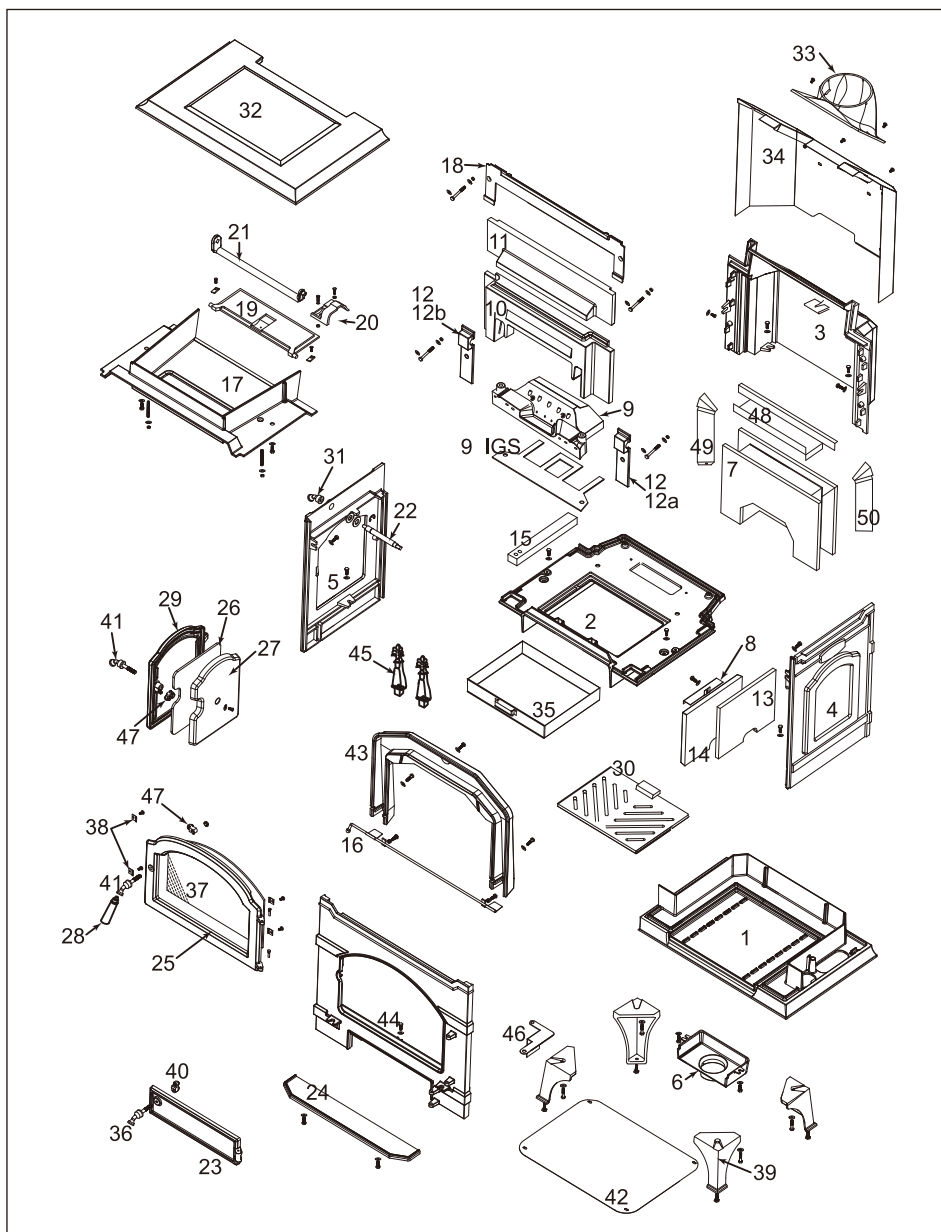
良いドラフトが発生するには、ストーブに十分な空気を供給する必要があります。煙突は、供給される以上の空気は吸い込めません。弱いドラフトの原因としては、家が密閉されすぎていて、ストーブに十分な空気が供給できない。あるいは、ストーブ以外に、室内空気を吸い込もうとする機器（キッチンの換気扇、衣類乾燥機、浴室など）があり、空気の争奪戦になっている。の2点が考えられます。これらの機器を止めることにより、煙突の吸い込みが良くなるようでしたら、各機器を使うタイミングに気を付ければ、問題は解決します。また、壁や床に、ストーブに必要な燃焼用空気を取り込む吸気口をつける方法もあります。

●結論

薪を焚くということは、科学というより芸術に近いかもしれません。芸術には当然技術も含まれます。設置場所や薪の種類によって、運転方法も変えなければなりませんので、ストーブを使用する人は、良い燃焼をするための技術（タイミングなど）を習得しなければなりません。しばらく使用しているうちに、様々な因果関係や、季節の変化がもたらす影響についても、見分けられるようになるでしょう。

DUTCHWEST Lean-Burn Heaters “Enlight”

リーンバーンヒーター“エンライト”分解図&パーツリスト ●スモール (FA247) ●ミディアム (FA248) ●ラージ (FA249)



〈バーモント・ナイト〉

Ref.	Description	FA247VN	FA248VN	FA249VN
1.	Bottom	30004535	30004566	30004551
4.	Right Side	30004536	30004536	30004552
5.	Left Side	30004537	30004537	30004553
23.	Ash Door	30004539	30004547	30004555
24.	Ash Lip	30004540	30004548	30004556
25.	Front Door	30004541	30004549	30004557
29.	Side Door	30004542	30004542	30004558
32.	Top	30004543	30004550	30004559
33.	Flue Collar	30004544	30004544	30004560
39.	Leg	30004545	30004545	30004545
44.	Front	30004611	30004538	30004554

注意: 製品改良のため、予告なく材料・仕様の一部を変更することがあります。

DUTCHWEST Lean-Burn Heaters “Enlight”

リーンバーンヒーター “エンライト” パーツリスト ●スモール (FA247) ●ミディアム (FA248) ●ラージ (FA249)

Ref.	Description	FA247	FA248	FA249
1.	Bottom	30002174	30002075	30002078
2.	Inner Bottom	30002175	30002076	30002230
3.	Inner Back	30002295	30002077	30002231
4.	Right Side	30002082	30002082	30002171
5.	Left Side	30002083	30002083	30002170
6.	Outside Air Bracket	30002205	30002205	30002205
7.	Fountain Assembly	30002100	30002100	30002100
8.	Brick Support Bracket	30000986	30000986	30000986
9.	Shoe Refractory	30002101	30002101	30002243
	Insulation Gasket for Shoe Refractory	30002286	30002286	30002864
10.	Lower Fireback Refractory	30002307	30002102	30002244
11.	Upper Fireback Refractory	30002308	30002212	30002251
12.	Lower Retainer	— — —	30002272	30002272
12a.	Retainer Lower, Right	30002303	— — —	— — —
12b.	Retainer Lower, Left	30002337	— — —	— — —
13.	Right End Insulation	30002209	30002209	30002209
14.	Right End Refractory	30002213	30002213	30002213
15.	Lower Side Door Refractory	— — —	30002222	30002222
16.	Primary Air Flap Assembly	30002734	30002735	30002736
17.	Inner Top	30002300	30002080	30002233
18.	Fireback Retainer	30002304	30002203	30002236
19.	Damper	7000954	7000954	7000954
20.	Damper Adjuster	7000950	7000950	7000950
21.	Damper Crank	7000951	7000951	7000951
22.	Damper Operating Rod	30002311	30002274	30002241
23.	Ash Door	30002301	30002091	30002235
24.	Ash Lip	30002302	30002204	30002237
25.	Front Door	30002178	30002085	30002177
26.	kaowoolInsulation	30004711	30004711	30004713
27.	Inner Door	30004710	30004710	30004712
28.	Wood Handle Assembly	2787	2787	2787
29.	Side Door	30002439	30002439	30002440
30.	Grate	30002092	30002092	30002087
31.	Damper Handle	5004265	5004265	5004265
32.	Top	30002299	30002079	30002232
33.	Flue Collar	7000969	7000969	1305050
34.	Outer Back	30002310	30002226	30002257
35.	Ash Pan	7000G79	7000G69	30002240
36.	Ash Door Handle	5004237	5004237	5004237
37.	Glass	30002156	30002097	30002157
38.	Glass Clip	30002146	30002146	30002146
39.	Leg	30002086	30002086	30002086
40.	Pawl Assembly	5004025	5004025	5004025
41.	Front&Side Door Handle	5004245	5004245	5004245
42.	Bottom Heat Shield	30002312	30002280	30002293
43.	Primary Air Manifold	30002176	30002089	30002172
44.	Front	30002173	30002081	30002169
45.	Andiron	30002383	7001117	7001117
46.	Rheostat Bracket	30002216	30002216	30002216
47.	Pawl Assembly (Long)	30002362	30002362	30002362
48.	Fountain HS	30004572	30004572	30004572
49.	Left Deflector HS	30004568	30004568	30004570
50.	Right Deflector HS	30004569	30004569	30004571

注意:製品改良のため、予告なく材料・仕様の一部を変更することがあります。

(1307EN)



Dutchwest Japan
wood stoves & fireplaces

ダッチウエストジャパン株式会社

〒080-0010 北海道帯広市大通南28丁目4

フリーダイヤル  **0120-700027**